

平成30年度 自己評価結果

認定こども園あいしゅう幼稚園（教育職員自己評価）

平成31年6月1日

1. 園の教育保育目標

子どもが主人公である認定こども園を基本とし、日々の遊びや園での生活をとおして園児一人ひとりが心身共に満たされるような支援を行い、園児の自立や豊かな感性が育まれる教育・保育を目指す。

2. 本年度の主たる目標と計画

- ・新幼保連携型認定こども園教育保育要領の改訂部分、特に、3つの柱と10の姿を十分に理解し、本年の指導計画策定においても保育教諭他園のすべての職員が共通認識をもって取り組めるようにする。
- ・自己評価結果項目を評価して振り返るだけでなく、教職員が共通理解を持ち、使ってみることで、その共通性や考え方の違いに気づき、保育教諭はじめ教員間の対話が始まるよう活用する。
- ・保育教諭としての専門性に関する研修に参加し、自分なりの幼児観、保育観について客観的に見つめる力を身に付ける。

3. 評価結果と取組状況

	評価項目	取組状況
1	年間を通しての全体的計画の編成・実施に関して、教職員間の共通理解をはかる。	園の教育保育理念と新しい幼保連携型認定こども園教育保育要領を全職員で再確認し、ねらいを立てた上で、指導期間ごとの内容を検討した。
2	小学校との連携を進めるため、要領の10の姿に基づいたアプローチカリキュラムの作成に取り組む。	今年度においては、これまでの5領域と10の姿の性格の違いを十分に理解し、小学校との接続において、小学校のスタートカリキュラムとの効率的な連携について一定の成果を上げることができた。
3	子どもの安全を最優先に子どもの側に立って指導計画を作成する。	他県での散歩中の死亡事故等を踏まえ、今年度においては特に、お散歩コースの安全確認ならびに心掛けについて、幼児を中心に周知を図った。
4	教育保育の質の向上のために、園内の意見交換を充実させる。	会議等の充実のため、ファシリテーションに関する研修にも参加し、職員会議等の進行役を交代で行うなど、みんなが意見が反映される会議づくりに努めた。
5	保護者様に対して、共感的な態度で接し、要望・苦情に適切に対応する。	子育て経験のない保育教諭が保護者様を納得させるには、保育教諭としての専門性やカウンセリングなどの研修(処遇改善のスキルアップ研修を含む)に参加し、自己啓発活動に取り組んだ。
6	園舎等の施設設備について安全点検の体制づくりを確認する。	今年度は、園舎の全面建て替えもあり、工事期間中の安全な生活についても、十分に配慮するとともに、新しい施設の安全な利用について、子どもたちにも理解を図ることができた。

4. 総合的な評価結果

保育教諭として自己評価に取り組んだが、はじめは実感がなかったが、その他の項目を含めて点検する中で、自分の保育教諭としての甘さや課題が具体的に浮かび上がるようになって来た。しかし、子育て支援等において、家庭の子育てに真剣に悩む保護者様へのケアに取り組む、これまで以上に、研鑽活動に取り組む必要があると感じた。